山下先生とテレビ画面

高山利弘

私が山下先生に初めてお会いしたのは、大学院入試の面接試験の時でした。それまでお名前しか存じ上げなかったのですが、すでに先生は『平家物語研究序説』と『軍記物語と語り物文芸』の大著をほぼ同時期に出版されていたので、パワフルでエネルギッシュな、外見もさぞかし大柄で体格のよい方であろうという、まことに勝手で失礼な想像をしていました。

面接の時は、私から見て右側に田島先生、中央に後藤先生、左側に山下先生が座っておられたと記憶しています。何しろ初対面であり、緊張もしていたので、三人の先生方のお顔とお名前が一致しませんでした。口頭試問が進むうちに、一番小柄に見えた方が山下先生であるとわかったのですが、私の勝手な想像と違っていたので、少々意外な思いをした覚えがあります。とはいえ、今にして思えば、パワフルでエネルギッシュな研究活動と体格とは全く無関係。大学院へ入学を許され、日々の山下先生をまのあたりにして、愚かしい想像していたものだと恥ずかしくなりました。

私は名古屋で四年半ほど過ごした後、故郷に戻ってからすでに八年が過ぎました。山下先生とお会いする機会も少なくなってしまったわけですが、先日、勤務先で教材用に購入した平曲のビデオソフトを視聴したところ、山下先生が解説者として出演されていました。画面を通してのことですが、久しぶりに先生にお会いできて、嬉しくなったと同時に少々驚きました。もちろん、先生は平曲研究の第一人者ですから、解説者として登場されるのは別段不思議ではありません。しかし、粗雑ともいえる紙製のパッケージには先生のお名前が記されておらず（失礼なことです）、また見る側はその内容もわからぬままに、先ずそのビデオソフトを再生してみるわけですから、突然の先生の登場には、やはり驚いてしまいます。

ところで、テレビ画面といえば、私は偶然テレビに映った山下先生を二度ほど目にしたことがあります。一つは私が院生だった時のこと、昭和五十九年頃だったで

しょうか。その日は月に一度の中世文学研究会が金城学院大学で開かれましたが、当日は名鉄線の事故か何かで、ダイヤが大混乱した日でもありました。私も下宿に帰り着くまでにかなりの時間がかかったと記憶しています。夕刻のＮＨＫテレビのニュースでも報じられたほどですから、かなりのトラブルだったのでしょう。そのテレビ画面には大混雑の大曽根駅の様子が映し出されていましたが、何気なく見ていた混雑の映像の中に山下先生の姿が見えたのです。時間としてはわずか二秒か三秒ほどだったと思いますが、かなり長い時間のように感じられました。たとえ群衆の中ではあっても、たった一人の顔見知りの人間がいれば、案外わかるものだということも実感しました。

もっとも、地元の名古屋で、偶然にテレビに映っても不思議なことではないともいえるのですが、それから数年後、私はテレビに映った山下先生をまたまた目撃してしまったのです。それは、たまたま見ていた深夜のニュース番組中の、時事問題について通行人にインタビューし、世論を垣間みるというコーナーでしたが、インタビューを受けていた人の脇を、山下先生がスーッと通られたのです。その番組は東京のテレビ局の制作であり、関東エリアでの放映であろうと思われるので、おそらく都内で撮影されたのでしょう。お忙しい先生のこと、頻繁に上京されると伺っていたので、このようなことがあっても不思議はないわけですが、名古屋ではともかく、東京でも同じ偶然が重なったのにはびっくりしました。

多分、先生は、ご自身がテレビに映ってしまったことを御存じないだろうと思います。まさに偶然のなせる業でしょうが、私の友人に、どういうわけか街角のいろいろなインタビューにつかまってしまうという男がいます。彼によれば、相手を引き付けてしまう〈何か〉を持ち合わせているのだそうです。そういえば、世の中にはクジや懸賞に当たりやすい人がいるということも、よく耳にする話です。とすれば、ひょっとすると山下先生は、テレビに映ってしまいやすい方なのではないか、先生が偶然テレビに映っている機会は、実はもっと多いのかも知れない、などと考えたくなってしまいます。たとえ偶然にせよ、たまたま映ったテレビ画面から、お元気な先生を拝見することができれば、実に嬉しいのですが…。

名古屋大学御退官後も、御健康に留意されて、ますます御活躍されることをお祈り申し上げます。